

ムーミントロールのことばと文化 — Svenskfinland へのいざない —

黒田 享

ムーミンはフィンランド生まれだが、日本でも非常になじみが深いキャラクターである。Tove Jansson による原作シリーズは多くの言語に翻訳され、アニメーション版は各国のテレビで放送されているが、日本とフィンランド以外では驚くほど知名度が低い。

日本での知名度の高さはアニメーション版ムーミンによるところが大きい。日本ではこれまで1969年10月～1970年12月、1972年1月～1972年12月、1990年4月～1992年3月の3回アニメーション版が製作されているが、起用された声優やスナフキンの振る舞いなどに関して原作とアニメーション版の表現を比較分析すると、日本で放映されたアニメーション版では登場人物の年齢が原作よりずっと低く設定されていることが明らかである。日本でのムーミンの知名度は原作自体よりも、原作と乖離したアニメーション版ムーミンのイメージによるところが大きいと言える。

原作者 Tove Jansson (1914～2001) はフィンランド国籍であるが、母親はスウェーデン国籍であった。また、父親はフィンランド国籍であるが、スウェーデン語系フィンランド人であり、原作者の母語はスウェーデン語である。ムーミンシリーズのオリジナルもスウェーデン語である。

スウェーデン語系フィンランド人はフィンランド国内で5%程度の割合しか占めない少数グループであり、居住地域も偏っている。その言語は本来現在のスウェーデン王国で用いられているスウェーデン語と同根であるが、長期間に渡るフィンランド語との接触の末、独自の性格を持つようになっている。

現在ではスウェーデン語系フィンランド人は減少傾向にあり、社会的にフィンランド語系フィンランド人との同化が進んでいるが、独自の文化が振興され、守られている。

ただしムーミンシリーズの原作者である Jansson の世代ではスウェーデン語系フィンランド人のフィンランド語系フィンランド人への同化はまだそれほど進んでいなかった。外部との接触が極めて少ない、独特の住民のみが住む「ム

「一ミン谷」を舞台として展開するムーミンの世界の背後にはこうした作者の文化的背景があると考えられる。